

クラス	授業時間 (月～金)	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	授業時間 (土)	土曜日
M1	16:50～18:00		理科	国語	算数		14:00～15:10	算数
	18:10～19:20		理科	国語	算数		15:20～16:30	算数
	19:35～20:45			国語	算数		16:40～17:50	社会
							18:00～19:10	社会
A2	16:50～18:00		社会		理科		14:00～15:10	国語
	18:10～19:20		社会		理科		15:20～16:30	国語
	19:35～20:45		算数				16:40～17:50	算数
							18:00～19:10	算数
A1	16:50～18:00		算数		理科		14:00～15:10	社会
	18:10～19:20		算数		理科		15:20～16:30	社会
	19:35～20:45		算数				16:40～17:50	国語
							18:00～19:10	国語

【4科目受講】(週3日)

○科目は国・算・社・理です。70分授業を、

Aクラスは週 9コマ(週3日: 国語 2コマ 算数3コマ 社会2コマ 理科2コマ)

Mクラスは週12コマ(週4日: 国語 3コマ 算数5コマ 社会2コマ 理科2コマ) 受講していただきます。

【2科目受講】(週3日)

○科目は国語・算数です。70分授業を、Aクラスは週5コマ (国語 2コマ 算数3コマ) 受講していただきます。

(Mクラスは2科目受講はできません)



※2科目で受講される方は、上表の曜日・時間帯のうち国語・算数のみお通いいただけます。

※Mクラスで受講するためには所定のテストでMクラス資格を得る必要があります。

※「対面授業」に加え「動画授業」も併せてご利用いただけます。

※毎月クラス替えを行い、お子様の学力に最も適したクラスで授業を行います。(クラスによるプログラムの進み方の違いはありません。)

コース	科目	入会金	授業料 (1ヶ月分)	教材費等	学習力育成 テスト(12回)	公開模試 (3回)	日特 (4月～7月)
Mクラス	4科目	22,000円	47,520円	43,967円	52,800円	13,200円	53,306円
Aクラス	4科目	22,000円	35,640円	43,967円	52,800円	13,200円	53,306円
	2科目	22,000円	26,400円	27,203円	39,600円	9,900円	26,917円

※上記は2024年前期(2024年4月～2024年7月)の会費です。

※上記代金の教材費・テスト代・日特代は7月までの半期分です。

日能研の【授業】

日能研は、多様な子どもたちの学びを支援していくために、クラスごとの授業・クラスごとのサポートという考え方を強くしていきます。子どもたちは、「自分がどんな課題を抱えているのか、どうすれば前に進んでいけるのか」を考えられる自分自身の学習方法の具体化を必要としています。日能研では、クラスごとにクラス担当者とそれぞれの教科担当者がチームを組んで、子どもたちといっしょに何ができるのかを考えます。いっしょに実行し、また考え、そして子どもたち自身で何かができるようになる——そんな目標に向かって、いっしょに歩み続けたいと思います。

集団の中で個人の力を

すぐに忘れてしまうのは、本当の意味でわかった状態になっていないから。日能研の授業では、子どもたちにとって実行可能な、具体的な学習方法を手渡すことに重点がおかれます。「何がわかっていて、何がわかっていないのか」「どこまでわかっていて、どこからわからないのか」を整理することも大事にします。中学入試に向けて学んでいく内容は、高等教育（大学）、そして社会に出てからも大変役に立つこと。「いま、キミたちが学習していることが、社会の動きや日常生活にどうつながっているのか」「身の回りの自然の中に科学的な目を向ければとてもおもしろいことが隠れている」など、そんなエピソードを授業のなかに交えながら、学びのおもしろさが伝えられます。日能研の授業を「おもしろくて、ためになる」と子どもたちが評価してくれるのは、この場所で出会える新鮮な考え方や知識が、大きな魅力となっているからでしょう。

知識を道具に

知識が本当に「使える」ことを意識していきます。手がかりの探し方や別の求め方などと広げることによって、できるだけ複数の視点を提示したり、子どもたち自身が説明してみることで使える知識としての確認がなされたり。答えを出すことではなく答えが出るまでの論拠を大切にすること……。子どもたちが心の底から「そうなんだ!」と実感するまでが展開です。

日能研の授業では、子ども一人ひとりが能動的な学習者として参加することが必要です。もちろん、その能動的な参加を育てるために工夫された授業展開がなされます。子どもが、「YES」「NO」で答えるような発問ではなく、子どもたちがオープンに自分の考えを話し出せるような発問が多用され、教室のなかでは、まさに活性化された学びの世界が展開されていきます。

無限の学びへ

毎回のカリキュラム項目やテキストの内容を正確に理解することは授業のごく一部。社会のいろいろな事象を見たとき、単純な視点では説明できないことが出てきます。たとえば、漢字の書き順を覚えるのは単純だと思ったら、世の中にはいくつもの書き順が存在した—

それを知ったときに、これまでは書き順は一つと思い込んでいた自分の概念が揺さぶられ、「書き順というのは、どこで誰が、何のために決めたのか?」というような疑問が生まれます。伝達された知識を当然のこととして受け止める学習から、自分で疑問を持って学ぶ「主体的な学習」に変化するのです。自分が興味や関心を持ってどこまでも考えようとしたときに、それが「本当の子カラ」として自分に返ってくるのです。

日能研の授業は、毎回のカリキュラム内容を確認した後が本格的なスタート。今回のテーマが社会や自然とどう結びついていくのか、別の考え方や視点はないのか、などなどを考えます。ときには仲間と「あーでもないこーでもない」と議論をします。ときには一つの問題をじっくり時間をかけて考え続けます。授業そのものがそれぞれの子どもの学習観を育てていく場にもなるのです。授業担当の教務スタッフも、知識だけでなく、どんな「?」も受け止める気持ちの準備をして授業に臨みます。子どもの発想や視点は大人もびっくりする鋭さを持っているのですから。

お子さまの“やる気”を引き出し、“がんばり”にしっかりと応えます。